

平成28年度地域活動支援助成事業

美ら島海道ほったらかし農園事業

宮城島で雑草地になっていた農地を利用して、人間が何もしない自然農法の可能性を探る事業が行われました。

本来耕すこともしない自然農法ですが、沖縄では草が生える速さも量もすごくて、せっかく蒔いた種の行方が分からなくなってしまうということで、初回のみ耕作作業を行いました。

次に、緑肥による土づくり。固まりやすい粘土質の土地ですが、数種類のクローバーやライ麦等を合わせた種を蒔くだけで、植物が自然の緑肥となり、通路の雑草を抑制したり、土に栄養を与えやわらかくすることができます。

いよいよ粘土団子の実習に入ります。11月、宮城島・伊計島の住民、宮城児童館の子供たち、うるま市地域おこし協力隊等が参加して、秋まきの数十種類の種を混ぜた粘土団子を制作して蒔きました。粘土団子からでる芽が何の芽かを確認できるようにサンプル

【美ら島海道プロジェクト】

の畑も作りました。種の袋を一つ一つ開け、確認しながら粘土に混ぜる事で、作物の種を勉強する機会にもなりました。1月には粘土団子を蒔いた畑とサンプル畑を見比べて、何が生えてきているのかの観察を行いました。草の中をかき分けてたくましく育つ作物の発見は感動ものです。宮城島の畑では、人参・大根・レタスなどがよく育つことがわかりました。2月には春まき用の種も蒔きました。

今回の事業期間内には野菜の収穫には至りませんが、順調にいけば4月ごろには食べごろになりそうです。作りたいものを肥料を駆使して作るのではなく、そこでできる作物を土に選んでもらうこの方法は、耕作放棄地の解消や、これから畑をはじめる時、簡単に手をかけずに育てることができる作物を探す手法として有効かもしれません。



人間が何もしない農法？

自然農法家 福岡正信さんが考案した、不耕起（耕さない）、無肥料、無農薬、無除草の農法。固定種や在来種の数十種類の種を粘土団子にして蒔くことで、その土地にあった天災に左右されない作物の収穫を可能にします。